

お金がお金を生み続ける
すごい仕組み

年間 **100** 万円の

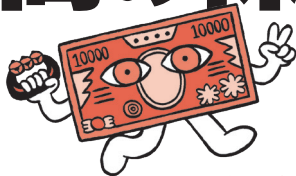
1 Million Yen Per Year

配当金

が入ってくる Dividend Money

最高の株式投資

Best Stock Investments



はい とう た ろ う
配当太郎
HAITO TARO

はじめに

株式投資で痛い目を見た人が配当株投資を始める理由

日本人の平均年収は、この30年間、ほとんど上がっていません。

バブル崩壊以降、日本人の賃金や生産性は先進国の中で最低レベルとなっていますから、日本が世界第3位の経済大国であることなど、ほとんどの人が忘れてしまったように感じています。

30年間も賃金が上がっていないため、最近では20〜40代の現役世代を中心として、日本人の間で「投資熱」が高まっているといわれます。

若い世代の人は生活防衛のための手段として、中高年の方々は老後を安心して過ごすために、株式投資に注目しているようです。

この本を手にとってくださった方も、ほとんどが次の5つのどれかに当てはまるの

ではないでしょうか？

- ① これから株式投資を始めたい
- ② 着実に資産を増やせる投資法を探している
- ③ 株式投資で痛い目を見たので再挑戦したい
- ④ 年金や貯蓄だけでは老後の生活が不安
- ⑤ 給料の他に安定した収入源が欲しい

本書で紹介する「配当株投資」は、こうした人にこそ、適した投資法だと思います。逆の見方をすれば、この5つが配当株投資の最大の持ち味ということが出来ます。配当株投資とは、株を保有していることで、その企業が利益の中から株主に分配する「配当金」によって利益を得る……という投資法です。

この本では、配当金を主な目的とした株式投資を「配当株投資」と称しています。

株式投資というと、切った張ったの派手なマネーゲームを連想する人もいるかもしれ

れませんが、配当株投資はそうしたギャンブル的な要素とは無縁な存在です。

10万円を投資しても、それが明日には100万円に化けることは期待できませんが、着実に配当金を積み上げていけば、やがて毎年100万円の利益を手にする日がやっできます。

その間、株価の動向に一喜一憂する必要はなく、仕事の合い間などに忙しく株を売買する必要もないのが、この配当株投資の一番の利点です。

稼ぐ力があり、株主に対してきちんと利益を還元する企業に投資して、配当金が積み上がっていくのを淡々と楽しむ……。

これが配当株投資の本質であり、**無謀な株の売り買いを繰り返さなくても、十分に恩恵を受けることができるのです。**

私は現在、ツイッターで「配当株投資」の魅力を発信し続けていますが、2021年2月から始めて、およそ2年の間にフォロワー数は7万5000を超えています。

ツイッターを始めた動機は「なぜ、これほど魅力的な配当株投資を、多くの人が注目しないのだろうか？」という素朴な疑問を持ったことが出発点ですが、私が授かった

配当株投資の数々の恩恵に対しての「恩返し」の気持ちもあります。

私がこの本の執筆を決めた理由は、もっと詳しく、もっと深く、もっと幅広い世代の人たちに、配当株投資の魅力をお伝えしたいと考えたからです。

リーマン・ショックに直撃されて配当株投資の底力を認識

私が必要な、配当株投資と真剣に向き合うようになったのか？

その経緯をお伝えすることで、配当株投資が持つ「ポテンシャル」(潜在能力)の高さや「底力」の一端をご理解いただけたと思います。

私が初めて証券会社に自分の口座を開いたのは2006年の夏ですから、16年ほど前のことになります。

子供の頃から、お金を貯めたりするのが好きだったこともありましたが、その当時は「村上ファンド」の村上世彰さんや「ライブドア」の堀江貴文さんがメディアを騒然とさせていた時代ですから、ごく自然に株式投資に目が向いたのだと思います。

その頃は学生だったので、単純に「株を持っていれば、テレビ局が買えちゃうのか!？」という程度の認識しかなく、「何だかよくわからないけど、株って凄いな」と思うようになって、株式投資のイロハを学び始めました。

世の中に、預貯金の他にお金を増やす方法があることを初めて知って、「何だか面白そうだな」という好奇心だけで株式投資を始めたという感じです。

運がよかったのは、「ライブドア・ショック」の後遺症によって、株価が底をついた時期だったことです。

あまり深く考えずに、話題になっていく銘柄を適当に選んで売買していたら、**わずか1カ月くらいで、すぐに利益が積み上がりました。**

利益といっても、100万円くらいの話ですが、まだ10代の学生にとっては、十分すぎるほどの大金です。

「株式投資というのは、自分に合っているのかな？」

勝手に舞い上がって、軽く浮かれたような気分になっていました。

このまま株式投資を続けていけば、簡単に1億円くらい手に入るのではないか……
と思い始めた矢先に、リーマン・ショックに直撃されて、見事に奈落の底に突き落と
されました。

株式投資を始めて3年目の2008年の9〜10月のことです。

私の持っている株も、軒並み大幅な値下がりをしていましたから、本当に目の前が
真っ暗になるような絶望感を味わいました。

この地獄を体験したことで、初めて配当株投資を意識するようになりました。

その当時、日経平均株価はバブル後を下回る26年ぶりの安値水準を記録しましたが、
そんな状況であっても、着実に黒字を出している企業があり、**数千円とか、数万円の
配当金が入ってきました。**

「地獄に仏」といったら大げさですが、これにはすごく助けられました。

金銭的にも心理的にもドン底に突き落とされた状態ですから、わずかな金額であつ
ても、救いの神が優しく手を差し伸べてくれたように感じられました。

ありがたいなあ、すごいなあ。

それまで何とも思っていなかった「配当金」について、改めてその意味と価値を見つめ直すきっかけになりました。

株価がどんなに下落しても、企業が頑張って稼いでくれれば利益をもたらしてくれるのですから、これほど頼もしい存在はありません。

私に限らず、現在、配当株投資をやっている人の多くは、リーマン・ショックや、2011年の東日本大震災、2020年のコロナ・ショックなどで手痛い失敗を経験しているのではないのでしょうか。

2022年に配当株投資が再注目されたのも、株価の低迷によって痛い思いをした人たちが、改めてその「底力」に着目したからだと考えています。

投資金額1000万円、増配率10%の実現を目指す！

配当株投資で大切なことは、「稼ぐチカラ」があり、その利益の一部をきちんと株主に還元する企業を選んで、継続的に株を買い進めていくことです。

株を買い進めて、持ち株数が増えれば、企業は持ち株数に応じて利益を還元してくれますから、それだけ多くの配当金を受け取ることができます。

その一方で、企業が稼いでいれば、その利益が上がった分だけ、株主に還元する配当金を増やしてくれます。

企業が株主に還元する配当金を増やすことを「増配」といいます。

この増配こそが、配当株投資の成否のカギを握る生命線であり、最大のチャームポイントとなります。

継続的に株を買い進めて「持ち株数」を増やすことと、企業が「増配」してくれること。この両輪が、配当株投資を押し進めるエンジンです。

現在、私が持っている株の9割は増配を続けており、その配当金を再投資したり、給料などの自己資金の一部を追加投入することによって、毎年10%から15%くらいのペースで配当金が増えています。

配当株投資は、次のような手順で進めます。

- 証券会社を通じて企業の株を買う
- ←
- 株を所有することで株主になる
- ←
- 投資先の企業が利益を上げる
- ←
- 企業が配当金を増配する
- ←
- 受け取った配当金の一部や全部を再投資して株数を増やす
- ←
- 働いて得た労働収入の一部を投資に回す余裕が生まれて、株を買い増す
- ←
- さらに配当金が増える

このサイクルを上手に回していけば、配当金は雪ダルマ式に成長します。

私はこうして得られる利益を「配当金ダルマ」と呼んでいます。

子供の頃に雪ダルマを作った経験がある方ならご存知でしょうが、大きな雪ダルマも、最初はゴルフボールくらいの小さな雪玉から始まります。

配当株投資も同様で、最初に10万円を投じて株を買っても、1年目に得られる配当金は30000円くらいでしょう。

それが積み上がって**100万円を投資できるようになれば、毎年3万円くらいの配当金**が得られるようになります。

核の部分がしっかりしていれば、雪ダルマと同じように、そう簡単に崩れてしまう心配はありません。

投資金額が1000万円に到達すれば、配当金ダルマの成長スピードが一気に急加速することになります。

ゴルフボールくらいの雪玉をコロコロと転がしていくと、次第に表面積が増してきて、ある段階に來ると、急に変速ギアを入れたように大きくなるスピードが速くなりますが、あの瞬間と同じことが起こるのです。

詳しい計算方法は本文でお伝えしますが、毎年10%の増配があれば、50万円の配当金が、およそ7年後には2倍の100万円になります。

15%の増配が続けば、わずか5年で100万円に到達できるのです。

ある程度まで配当金ダルマを大きくすれば、自重でトンドンと転がるようになり、大きく成長することになります。

本書では、コツコツと配当金ダルマを育てていくことで、毎年100万円の配当金を得るための取り組み方を詳解していきます。

配当株投資には、成功のための秘策や裏ワザはありません。

大事なポイントは、できるだけ早く始めること、きちんと投資先を選んで株を取得すること、一時的な株価の動きに動揺せず、前向きに株数を増やし続けること……にあります。

難しく考える必要はなく、基本さえマスターすれば、誰にでもできることです。

大きな配当金ダルマを手に入れるためには、どうすればいいのか？

初心者にはわかりやすく、株式投資を始めている方には新たな発見をしていただくために、配当株投資の持ち味とノウハウを徹底的に深掘りしてお伝えします。

2023年1月

配当太郎

本書は情報提供を目的としており、金融商品の購入を勧誘するものではありません。投資の最終決定並びに本書の活用は、ご自身の判断と責任にて行ってください。

第 **1** 章

半永久的に「配当金」が入ってくる最高の投資法



002 はじめに

株式投資で痛い目を見た人が配当株投資を始める理由

024 「配当株投資」は時間をかけて利益を積み上げる投資法
026 配当株投資の注目すべき6つの魅力とは？

030 配当株投資が「王道」であり、配当金は「主産物」の理由
034 増配には「沼にハマり込む」ような魔力がある

037 私の保有株は「9割」が増配しているのが現状

040 日本企業の「還元意識」は、年を追って高まっている

043 最近「累進配当」を強くアピールする企業が増えている
045 配当株投資の一番のリスクは、途中でやめてしまうこと

048 **配当金**コラム01

「配当株投資」と「優待株投資」の違い

『年間100万円の配当金が入ってくる』

- 050 株を保有して「出資比率」に応じた利益の還元を受ける
- 052 ネット証券を中心に複数の口座を持つ
- 053 年間の配当金「100万円」の破壊力
- 054 配当金は自分の好きに遣っても、利益が目減りすることはない
- 056 配当株投資を進めるための3段階のステップ
- 057 **STEP 01**
- 初期投資「100万円」で株を買ってみる
- 059 できるだけ早く「配当株投資」の成果を実感する
- 060 利益を増やすために「非課税枠」を活用する
- 062 **STEP 02**
- 年間12万円（1カ月あたり1万円）の配当金を目指す
- 064 早く目標に到達するためには、株を細かく買うのも有効
- 065 目標に到達するまでは、ガンガンにアクセルを踏み続ける
- 067 株価の変動に対する「免疫力」を鍛える

第 **2** 章

3万円⇒12万円⇒100万円
配当金を計画的に増やす3ステップ

068 第2ステップを「ゴール」に設定するのもいい

069 STEP 03

投資金額が1000万円を超えると、成長スピードが急加速する

071 「投資マインド」と「エンジン」は十分に暖まっている

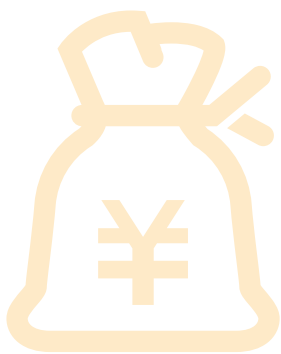
074 第3ステップで保有する株は5銘柄くらいが管理しやすい

077 意外に手間がかかる「株の管理」とは？

079 すでに1000万円持つ人は、どのように投資を進めるべきか？

082 配当金コラム 02

増配率10%を実現するための3つの努力



第 3 章

「配当株」を買う ベストのタイミングとは？

- 084 自分のペースで粛々と株を買い進める
- 086 株を買うタイミングを気にする必要はない
- 087 株と不動産は「売る」ものではなく「増やす」もの
- 088 「株は増やすもの」と実感した私の大失敗
- 090 まずは株を買って、自分なりの「価格の軸」を持つ
- 092 未永く持ち続けることが可能な「永続投資」
- 093 「株価が下がったら買う」ではなく、買い続ける習慣を身につける
- 095 自分が長く続けられるならば、どんな買い方でもいい
- 096 「ほったらかし」でも安心できる有力企業を選ぶ
- 099 配当株投資に向いている人、向いていない人
- 100 一日に何度も株価をチェックする必要はない
- 103 配当株投資の一番の強みは「誰にでもできる」こと

104 配当金コラム 03

「インデックス投資」と「配当株投資」の違い

第4章

一生持ち続けることができる 王道の配当銘柄

- 106 「参入障壁」が高い業種の中から投資先企業を選ぶ
 - 108 参入障壁が高い4業種から「稼ぐチカラ」の強い企業を選ぶ
 - 110 業界の第1位と第2位の企業を投資先に選ぶ
 - 111 「3割」以上のシェアを持つ企業は投資先の候補になる
 - 112 利益率が高い「ストック型ビジネス」の企業を選ぶ
 - 114 「商社」と「保険」が儲かりやすい理由
 - 116 大型株を買い進めて、早い段階で「地盤」を築く
 - 118 大型株は想像以上に株価が上下に変動する
 - 120 今から大型株を買っても、利益は十分に見込める
 - 121 大企業は懸命に決算予想の実現に取り組んでいる
 - 123 ニッチな分野で伸びる企業や時代の流れをつかむ企業にも投資
 - 129 気になる企業の株を買う際の2つの注意点
- 132 **配当金コラム04**
大型株で年10万円の配当金を得る方法

134 「1株当たり利益」を判断基準にする意味と効果

137 **PART 01**

1株当たり利益で企業の「稼ぐチカラ」を見抜く

140 1株当たり利益の「判断基準」は業種によって異なる

140 ケース① 通信キャリア

141 ケース② 商社

142 ケース③ 自動車

142 ケース④ ゲーム

143 リーマン・ショック前後からの推移を確認する

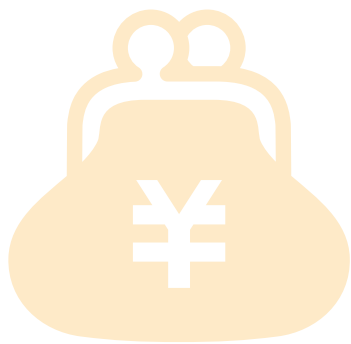
146 「株価」や「株価収益率」をチェックして競合他社と比較する

148 「割高だから買わない」わけではない

150 1株当たり利益を確認する際の注意点

第 **5** 章

「1株当たり利益」で
優良銘柄を見抜く!



151 **PART 02**

「有望株」を探し出すための6つの視点

- 151 視点① 1株当たり利益を超える配当金を出す企業をどう考えるか？
- 154 視点② 1株当たり利益が大きく変動する企業は要注意
- 156 視点③ 狙い目は「成長企業」が「成熟企業」に育つタイミング
- 158 視点④ 成熟段階まで成長する「有望株」の見極め方
- 160 視点⑤ 地元の特化した「稼ぐチカラ」のある企業を探す
- 162 視点⑥ 「減配」の可能性がある企業の株を買うこともある

165 **PART 03**

配当株投資との正しい向き合い方

- 165 「配当株投資≠高配当株を買う」という意識を捨てる
- 168 「高配当ランキング」を鵜呑みにしない
- 169 配当利回り「2%」を基準に企業をチェックする

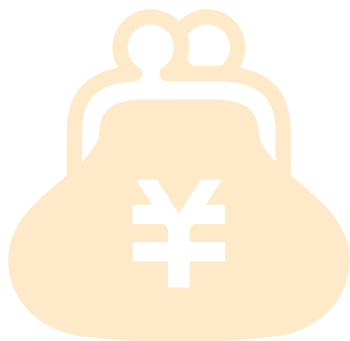
173 **配当金コラム 05**

純利益のすべてを配当金に出す企業

第 6 章

持っているだけで利益が増える 「増配銘柄」の探し方

- 176 企業のウェブサイトで「増配実績」を調べる
- 179 企業が発表している「中期経営計画」を確認する
- 181 「配当性向」と「配当利回り」は両方を見る必要がある
- 182 「配当利回り」と「取得利回り」の違いを理解する
- 185 株を買った時は「平均単価」で取得利回りを考える
- 186 「恩株が新たな恩株を生む」という好循環を生み出す
- 189 **配当コラム 06**
「減配リスク」とどう向き合おうか？



第7章

配当太郎が注目する 15銘柄の「今後」を診断!



- 192 注目15企業の「実力」と「魅力」を探る
- 193 診断① 三菱UFJフィナンシャル・グループ
- 196 診断② 三井住友フィナンシャルグループ
- 198 診断③ 三菱商事

- 201 診断④ 伊藤忠商事
- 203 診断⑤ 東京海上ホールディングス
- 205 診断⑥ NTT
- 208 診断⑦ KDDI
- 210 診断⑧ ソフトバンク
- 213 診断⑨ トヨタ自動車
- 216 診断⑩ ENEOSホールディングス
- 219 診断⑪ オリックス
- 222 診断⑫ キヤノン
- 224 診断⑬ JT
- 227 診断⑭ 大和ハウス工業
- 229 診断⑮ 積水ハウス

232 おわりに
明確な目標を定めることの重要性